

経営体の概要

- 所在地：熊本県玉名市
- 設置地区：旧天水町の4行政区（平成27年度設置）
- 団体名：玉名市鳥獣被害防止対策協議会
- 栽培作物・作付面積：果樹・35ha
- 構成員数：7人（令和6年3月末現在）

導入技術

- 大型捕獲罾本体（株式会社天草海材屋）
- 大型捕獲罾システム（株式会社J-bot）

導入経緯

- 高齢化等で耕作放棄地が増加し、果樹を含む農作物へのイノシシ被害が増加。
- 対策として、平成22年度より電気柵（市事業）、平成25年度よりワイヤーメッシュ柵（国事業）を設置したが、被害は止まらず。
- 平成28年からは、さらなる被害軽減を図るため、熊本県の「えづけSTOP！鳥獣被害対策事業」を活用した地域ぐるみの対策を講じることとし、大型囲い罾はそれを強化する柱の一つ。

取組の特徴・効果

- 廃棄（放置）及び規格外品の果実を大型囲い罾へ餌代わりに入れることで、それまで無意識に行っていたイノシシへの「えづけ」が解消された。
- 機械式の箱罾に比べ、イノシシの入る状況をスマートフォンで確認しつつ、ゲートを落下させることができるため、より確実に捕獲することが可能となった。
- なお箱罾のセンサーが風で草が掛かり稀に反応したり、またアナグマなどの夜行性動物の動きにも感知するため、夜間の反応が多いなど受信する担当者の負担が大きい点が課題である。
- また、囲い罾の補修にかかる経費負担もある。



【囲い罾】



【情報通信機】